

ご挨拶

—東都文京病院 2016 年の春—

2016 年 4 月 1 日

病院長 杉本充弘

桜の花が咲く季節となり、東都文京病院は 3 年目の春を迎えました。昨年 4 月からの病院再建の努力は、着実に実を結び、2 階産婦人科・外科系と 3 階内科系の 2 病棟体制が定着いたしました。地域の病院・診療所との連携や救急患者受け入れを推進してきたことに加えて、産後ケア入院と分娩の取り扱いを開始したことが、病院稼働実績の向上に結び付きました。病院職員の力が結集された結果であると考えます。

新年度の始まりにあたり、多くの職種で新しい仲間を迎えることができたことは、大きな喜びであります。病院という組織において、多職種のスタッフがチームとして力を発揮するためには、コミュニケーションが大切です。病院内のスタッフ間のコミュニケーション、患者の皆様とのコミュニケーション、病院・診療所の施設間のコミュニケーションにおいて、心と心が向かい合い、思いを伝えることができるように職員一人一人が心掛けたいと思います。

今年度は、東都文京病院にとって飛躍の年です。上半期に現在閉鎖されている 4 階病棟を回復期病棟、一部「地域包括ケア病棟」として再開することを目指します。また、8 月の医事システムの更新を機に、電子カルテの導入を図ります。新入職員の力が加わることで、病院の力がさらにレベルアップすることを期待しています。

東都文京病院は、地域の多様なニーズに応える小回りの利く総合病院として、地域医療連携ネットワークでの役割を果たしています。また、急性期から回復期の医療機能に加えて、周産期・小児医療、健診まで幅広く対応し、地域の皆様の健康を守ります。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。